**大原神社**

大原神社は852年に建立された神社で、本殿は1796年に再建されました。神社の本殿と絵馬殿（絵馬を展示するための特別な建物）には、35の絵馬のコレクションがあります。これらの絵馬には、この地域の養蚕や田作り、京都の南部にある平等院などをテーマにした情景が描かれています。最も古い絵馬は1599年のものとされています。

大原神社は出産に関係する場所としても知られています。大原神社には江戸時代（1603年〜1867年）、明治時代（1868年〜1912年）の出産・育児に関する資料が集まっており、国中から助産師が訪れる場所となっています。そして出産はかつて死亡率が高かったために、古来日本では穢れたものと考えられていました。この産屋は、そんな出産の穢れを取り除き、女性が出産時に神の祝福を受けられるように作られたのです。

産屋は、少なくとも奈良時代（710年〜794年）から日本に存在していたようです。大原の産屋は現在でも残っている数少ない産屋のひとつで、日本人の死生観において、生の世界と死の世界を分ける象徴である、川のそばに建てられています。なぜなら出産は2つの世界の間で起こる物だと考えられているからです。母親は産屋で出産し、体力を回復しながらこの場所で1週間ほど暮らしていたようです。この産屋がいつ建てられたのかは定かではありませんが、ここで最後に赤ちゃんが生まれたのは20世紀の変わり目だったようです。また、ここの砂は縁起の良いものと考えられており、安全な出産のためのお守りにも使用されています。